

クリロン化成株式会社



**異なる種類の樹脂を重ね
ほしい性能を作る**

食品をメインに、エレクトロニクス、メデイカル等の様々な分野で使用する、高機能複合フィルムを製造するクリロン化成。五層チューブ規格袋「五重もん君」、五層三方シール規格袋「彊美人（きょうびじん）」ほか、様々なフィルム製品を世に送り出してきた。

高機能複合フィルムは、ナイロンやポリエチレン等異なる種類の樹脂を重ね合わせ作っている。フィルムを重ね

ねる理由は、「見栄えが良い」、「熱で貼り合わせやすい」、「バリア性が良い」といった一つひとつの樹脂が持つ特性を複数合わせて、ほしい性能を併せ持つ、新しいフィルムを作るため。原料にまで戻って構成や厚みを検討、製造化するからこそ、顧客が希望する性能を持ったフィルムを作り出すことができるのだ。

**独自の製法が生み出す
ハイオリティの
機能性フィルム**

同社が築き上げてきた機能性多層フィルムの製造技術は「共押し出し水冷インフレーション製法」。まず、「共押し出し」という技術は、ナイ

ロンやポリエチレンなどの単層フィルムを貼り合わせるラミネート法とは異なり、フィルムそれぞれの層に対応する樹脂原料を一気に積層して多層フィルムにする技術をいう。原料から直接作ることで、無駄のない最適な設計をすることができるといふ強みがある。「インフレーション法」とは、チューブ状にして成形する方法で、内面が衛生的かつ多様な成形性を持つている。「水冷法」とは、水で一気に冷やすことで、しなやかな独特の風合いに仕上げる製法のことだ。

フィルム製法の基幹技術であるこの独自の製法技術を組み合わせることによって、同社でしか作ることのできないハイオリティなフィルムの生産が可能になっている。

**「五層の共押し出し」を
核技術とつなぐ**

同社では、看板技術となっている五層フィルムの事業がスタートした時期をもって「第二の創業期」としている。それまで主流であった三層フィルムとは、マーケットの可能性が根本的に変わったからだ。現在、受注の95%が五層フィルム。五層の共押し出し技術を持つ専業メーカーが、非常に少ないということがその理由の一つでもある。

「メーカーがマーケットを説得できるということはありませんので、必要とされるものをきちんと提供しているかどうかが大切なのです」と栗原清一社長。ピンホール等の発生率が低く、信頼性が高い五層フィルムは、マーケットのニーズに一致してい

たということだ。

また、受注のリピート率を上げるため、複合フィルムの大きな課題であるカールを減らす努力をしたり、よりハイバリアなものを開発したりと、価格競争を超越できる製品を生み出すことに余念がない。

さらに同社では、製造プラントをすべて自社で設計・製作しており、設備の細部までをカスタマイズできるプロフェッショナルが、大勢揃っている。良い製品を、納得できる良い設備で作りに上げる。これが同社の大きな強みでもあるのだ。

主な事業内容

食品・医療品・電子部品等の包装に使用される高機能複合フィルム(ナイロン・ポリエチレン・ポリプロピレン等を主原料とする多層フィルム)の製造・販売等



栗原 清一さん
代表取締役社長

Company
Profile

クリロン化成株式会社

住所 / 〒533-0003
大阪府大阪市東淀川区南江口1-3-20
設立 / 昭和35年10月
資本金 / 3,200万円
従業員 / 112名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6328-6951
FAX / 06-6328-6950

全国
20

関西
20

大阪
14

<http://www.kurilon.co.jp/>

美しく強い高機能複合フィルム

